

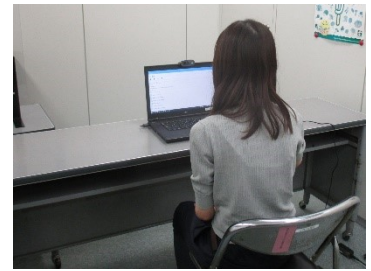
今月の重点活動

■花き 本巣郡花き振興会第34回通常総会をオンラインで開催

7月7日、本巣郡花き振興会第34回通常総会および情報交換会が新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンラインで開催され、会員や関係者など18人が参加した。

総会後に開催された情報交換会は、会長の進行で「新型コロナ後の花き産業の発展について」をテーマに活発な意見交換が行われ、今後の花き振興の参考となる「室内緑化」や「異業種交流」などのキーワードが出された。また、初めて開催されたオンラインでの情報交換会は、いつもと異なり、新鮮だったとの意見も聞かれた。

今後も、農業普及課では、本巣郡花き振興会の活動を支援していく。



【オンライン情報交換会の様子】

(園芸産地支援第一係・白木愛)

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■食農教育 出前教室にて講師を務める

本巣市の真桑小学校では5年生が校内の水田で稲作体験を行っている。7月7日、農業普及課、東海農政局、JAぎふ職員が講師となり、地元農業や主食である米について理解を深めるための出前教室が開催された。

当日は5年生約80名が体育館に参集し、間隔をとりながらの授業となった。農業普及課からは、岐阜県農業の特色や稲作技術の説明、近年のスマート農業について紹介を行った。生徒たちは各講師の話に聞き入り、熱心にメモをとっていた。

学校では10月に稲刈作業を行う予定であり、農業普及課も引き続き支援していく。これらの行事を通して、小学生が地元農業や食に関心を持ち、将来の農業後継者に繋がればと期待している。



【出前教室の様子】

(地域支援第三係・松本政行)

■指導農業士 感謝状の贈呈

7月12日、農林事務所長から昨年度で退任された指導農業士1名へ長年の指導農業士活動に対する感謝の意を表し、感謝状と記念品を贈呈した。

例年であれば、県の指導農業士会通常総会の式典の中で贈呈されるが、今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため総会がオンライン開催となり、各農林事務所に対応した。

今後、農業普及課では、新たな指導農業士の発掘と指導農業士活動の支援をしていく。



【感謝状贈呈のようす】

(園芸産地支援第二係・鈴木哲也)

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■水稲 JA営農担当者へのWeb研修会を開催

7月13日、JAぎふ本店において、JA営農担当者を対象とした水稲青空教室研修会が開催された。新型コロナウイルス感染拡大防止からWeb形式での研修となったが、営農担当者など約30名が参加した。

この研修会は管内の主力品種であるハツシモの穂肥施用前に、JA営農担当者が品種特性や中干し以降の栽培管理について理解を深め、今後各地で開催される水稲青空教室で説明できるよう毎年開催されている。農業普及課からは7月8日に発令されたトビイロウンカ注意報に対応したトビイロウンカの生態と今後の防除について解説した。

今後、農業普及課では、JA営農担当者と連携しながら、令和3年産米の安定生産に向けて栽培管理指導や生育調査を実施していく。



【Web研修会の様子】

(地域支援第三係・松本政行)

■春だいこん 品種選定会議を開催

7月9日、JAぎふ島集荷場において、島園芸振興会だいこん部会の品種選定会議が開催された。

農業普及課からは秋冬・春だいこんの品種調査結果および現行品種の品質状況を報告した。その後、会員、種苗会社およびJA担当者と令和3年産秋冬・令和4年産春だいこんの品種の検討を行った。秋冬だいこんは調査結果の良かった1品種を試験品種とし、春だいこんは新たに1品種を導入することとなった。

今後も、農業普及課では、品種調査の支援をしていく。



【試験品種】

(園芸産地支援第一係・横田京子)

ぎふ農畜産物のブランド展開

■にんじん 令和3年度冬にんじん栽培講習会を開催

7月9日、JAぎふ鶴沼支店において、令和3年産冬にんじんの栽培講習会が開催された。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、人数を制限して2回に分けて開催された。

JA全農岐阜から春夏にんじんの販売経過が報告された後、農業普及課からは春夏にんじんの問題点や冬にんじんの栽培管理について説明を行った。

昨年の冬にんじんは干ばつによる発芽不良で作柄が良くなかったことから、今年度は多収となるよう、農業普及課では引き続き指導を行っていく。



【栽培講習会の様子】

(地域支援第二係・水川誠)

■カキ 摘果講習会の開催

7月4日～9日、管内柿産地において、摘果講習会が開催された。摘果はカキの大玉・高品質生産のために最も重要な作業である。

農業普及課からは今年の生育状況や病害虫防除などの説明、摘果作業の実演を行った。今年は開花期の天候不順により生理落果が心配されるため、生理落果の状況を見定めながら摘果作業を始めるよう指導した。

今後、農業普及課では、病害虫防除や着果管理などについて指導し、大玉・高品質安定生産を進めていく。



【講習会の様子】

(園芸産地支援第二係・鈴木哲也)